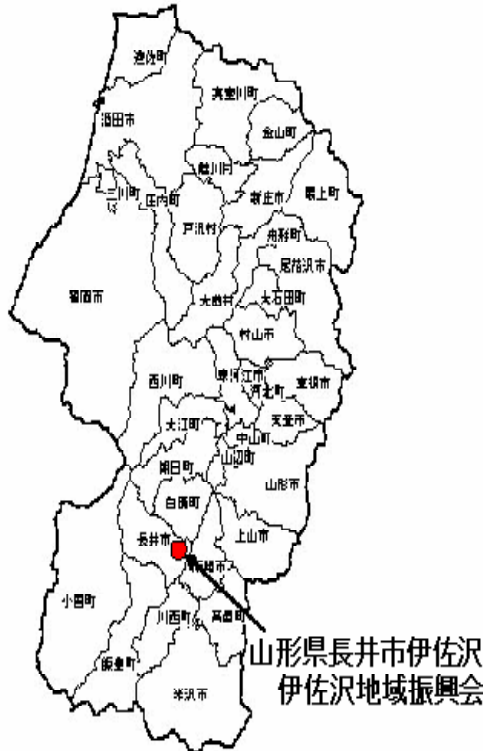


平成 17 年度農林水産大臣賞

山形県長井市伊佐沢

「伊佐沢地域振興会」

位置図



地区の概要

事 項	内 容	
地区の規模	旧市町村単位(9集落)	
地区の性格	中間農業地域	
農 家 率	44.3%	(内訳) 総世帯数 429戸 農 家 数 190戸
販売農家数	143戸	(内訳) 専業農家 20戸 Ⅰ兼農家 33戸 Ⅱ兼農家 90戸
主要作物 ()内産出額	水 稲 (146百万円) すいか (79百万円) りんご (68百万円)	
農用地の状況	耕地計 224.72ha	(内訳) 田 152.4ha 畑 35.02ha 樹園地 37.3ha 耕地率 7.7% 農家一戸当たり農用地面積 1.18ha

【むらづくりの経緯・動機等】

- ・ 伊佐沢地区は米と果樹等を組み合わせた複合経営が盛んで、農業用水源の里山や森林の保全意識が高い地域。
- ・ 地区周辺の道路整備の結果、山土採取により地区の里山が荒廃、これに住民が危機感を持ち、里山の回復・保全活動の推進や地区内各種団体の束ね役として「伊佐沢地域振興会」を平成4年に設立。
- ・ 平成8年から同会が中心となり、地域資源を活用したむらづくりを進めるためのワークショップ等で議論を開始し、平成13年に農業を中心としたむらづくりの目標として未来構想マップを作成。

【推進体制】

- ・ 当振興会は自治会とは別に、住民自らが地域振興を目的に設立された組織。
- ・ 地区全戸が加入し、地区内30組織の代表を委員としている。各戸からは家長に限らず参加していることから、年令・性別においてバランスの良い構成で活発な話合いの体制が確保されている。

【生産面における寄与状況】

- ・ 耕作放棄地へのそばの作付けを奨励するとともに、旧家を利用したそば屋「蔵高塾」を開店。
- ・ 地区特産の果樹や野菜を販売する直売場を開設。作付面積や作目を会員間で調整し、安定した品質・品揃えを確保。特に、女性や高齢者が担う野菜の生産により周年での営業が可能となり、集客数が増加。また、地場産の農産物を活用した加工品づくりにも取り組む。
- ・ すいかやぶどう、ラフランスなど多種類の果樹を栽培、また、ぶどうの苗木の全国的な産地として山梨県など全国各地へ販売。

【生活・環境整備面における寄与状況】

- ・ 「里山の緑と大地を守る宣言」を発信し、建設資材の処分地として売買対象となった土地を有志が買い取るなどのトラスト運動や行政・企業と共同で山土採取跡地への植樹を実施。
- ・ 沖縄との相互交流を進めるとともに、修学旅行生の受け入れを計画。地区の情報発信のためのホームページを開設。
- ・ 芸術家が自然に集まり、むらづくりの一員として活動。



ワークショップを契機に開設された手作りの共同直売場 買い物客で賑わう共同直売場。特産の果樹のほか、女性・高齢者が生産する野菜の人気も高い。



旧家を利用したそば屋「蔵高塾」。季節営業であるが、日常的にむらづくり活動の拠点として多くの地区住民が集う。



トラスト運動により有志で買い取った農地